

霧島メガソーラー計画

「傾斜地災害を懸念」

住民説明会、反対が続出

南日本新聞 令和2年3月18日

霧島市霧島地区で県内最大級の大規模太陽光発電所（メガソーラー）建設を計画する事業者は17日夜、環境影響評価（アセスメント）の調査手法を示す方法書の説明会を霧島公民館で開いた。地元住民ら約70人が参加。市や市議会が建設反対を表明している計画に「即刻中止すべきだ」と反対の声が続出した。事業者は、シフトエ

ナジージャパン（福岡市）が霧島での建設を目的に設立した「SEJ IV 合同会社」。霧島田口と霧島大窪の山林約135分のうち、約73分を伐採し、約25万8千枚の太陽光パネル設置を予定する。発電出力は80メガワット。

説明会では「現地は急傾斜地で災害が起きるのは必至」「自然や景観を壊してまで、なぜ大規模発電所が必要

か」など異論が相次いだ。業者側は「意見を広く聞き、手続きを進めたい」と事業推進の姿勢を崩さなかった。

終了後の取材に、担当者は今夏にも環境アセスの現地調査を始めたい考えを示した。

方法書は、27日まで市役所の本庁と霧島総合支所、神乃湯、シフト社のホームページで閲覧でき、4月11日まで意見を受け付ける。

（濱田朋美）